

# 2018年9月18日掲載 輸送経済新聞

## 保冷輸送をスタート

### 第一貨物 特積みネット生かし

第一貨物(本社・山形市の武藤幸規社長)は、このほど、保冷輸送を開始した。ボックス、パレット単位での

温度管理と

特積みネット

トワークを

組み合わせ

ることで、

新たな顧客

ニーズを開

拓する。

GDP

(適正流通

基準)に対

応した2〜

8度のほ

か、0〜10度、マイナス

20〜0度といった温度帯

で、主に医薬品や冷蔵・

冷凍食品の取り扱いを想

定。

保冷のための小型ボッ

クスは3辺が62×50×62

センチ、1100×110

0パレット用ボックスは

高さ180センチのカバー

です。つまり覆い、荷物の

預かりから配送完了まで

外気に一切触れさせずに

輸送する。パレット

用ボックスの場合、複数

アイテムの積み合わせが

でき、顧客側で伝票作成

や荷札貼りなどの作業時

間短縮も図れる。

リードタイムは48時間

程度まで、集荷から翌日

か、翌々日に配送完了と

なる荷物が対象。エリア

は当面、自社ネットワー

クを展開する関西エリア

以東とする。

「新たな価値を

提供していく」

同社では以前から、市

場調査や新商品の研究・

開発を進める中で、保冷

輸送に着目。冷蔵・冷凍

食品などの共同配送に取

り組む企業はあるが、エ

リアを面でカバーする特

積みの集配網を生かせ

ば、さらなる需要の掘り

起こしも可能と判断し、

サービス開始に至った。

「顧客が求めているも

のや強みを生かせる領域

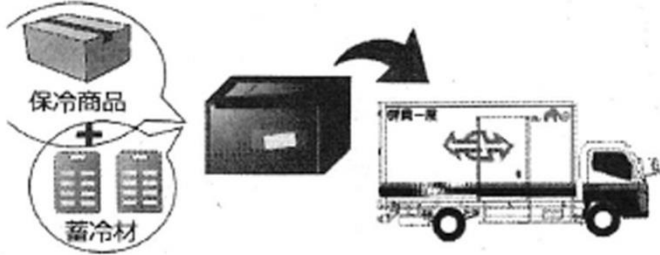
は何か、ヒアリングや検

討を行う中で、生まれた

サービス。特積みで新た

な付加価値を提供してい

きたい(第一貨物)。



保冷ボックスと蓄冷材を活用して温度管理。一般貨物との積み合わせ輸送を行う